

大阪市水道局 救命ライフラインなど高付加価値型技術開発委員会を発足

大阪市水道局は、救命ライフラインの構築、水道資源活用の都市環境貢献策、水質リスク管理、塩素消毒による異臭・カルキ臭低減技術等について議論する高付加価値型技術開発委員会を発足させた。

詳細は、下記の新聞記事を参照してほしい。

◆水道産業新聞 10月4日（月）付

新聞 2010年（平成22年）10月4日（月曜日）

救命ライフラインなど審議

大阪市水道局 高付加価値型技術開発委を開催

大阪市水道局は9月10日、第11回大阪市水道局高付加価値型技術開発委員会（委員長＝高田至郎・神戸大学名誉教授）を同市中央区の関西アーバン銀行本店会議室で開催し、救命ライフラインシステムなどの調査研究について意見交換を行った。

同局は、高付加価値型の技術開発をめざした調査研究を進め、実用的な形で今後の施設整備に反映させていくため、平成

16年に学識経験者など有識者を含めた「大阪市水道局高付加価値型技術開発委員会」を設置した。

委員会では、①救命ライフラインシステムの構築②水道資源を活用した都市環境貢献策の推進③高水準の浄水水質供給システムの構築に向けた浄水処理、システム及び水質リスク管理手法④塩素消毒により生成する異臭・カルキ臭の低減に向けた浄水処理技術⑤水道事業の国際展開などをテ

ーマに調査研究を進めている。

今回は、関西アーバン銀行ロビーに今年8月に設置した水道PRの拠点施設「御堂筋ミストプラザ」を視察した後、それぞれの調査研究について現状報告と今後の取り組みについて意見交換を行った。

「救命ライフラインでは医師会との勉強などが有意義」「ミスト散布は熱負荷軽減効果はつきりしており、熱負荷軽減

目標達成の調整弁になりうる」と考えられる。水道局から環境行政に積極的に情報発信を行ってほしい」とCRESTの視察において、淀川を水源として浄水処理することの厳しさをもちとPRしていくことが重要である」「微生物学的リスクの定量評価に向けた実験施設での試験にあたっては、添加するトレーサの拡散性、処理槽内での短絡流の問題にも十分留意されたい」など活発な意見交換がなされた。